

議 会
だより

あしや

町

NO. 180

平成 26 年 2 月 15 日発行
福岡県芦屋町議会

もくじ

12 月定例会

- 議員定数 1 名削減・・・・・・・・・・ 2
- 8 人が町政を問う (一般質問)・・・・ 7
- 総務財政・民生文教常任委員会視察レポート・16
- 町かどインタビュー・・・・・・・・・・ 18

冬の寒い時期に、新芽だけを刈り取って収穫されたものが、芦屋名産の柔らかくておいしい「ひじき」です。冷たい水につかって、ひじきを刈っている
柏原在住の松岡スマ子さんです。

(平成 26 年 1 月 29 日撮影)

議員定数 1 名削減

議員定数条例改正

次回選挙から定数 12 名に

平成 23 年 6 月定例会で提案され、継続審査となっていた「議会議員定数の一部を改正する条例」が、修正可決されました。解散がなければ、次期改選（平成 27 年 4 月）から、議員定数が現在の 13 名を 1 名削減した 12 名とすることを決定しました。

芦屋町議会の議員定数は、町の条例で定められています。これまでも人口の減少や行財政改革を背景に、表①のとおり定数の削減が行われてきましたが、平成 23 年 6 月定例会において「地方自治の量、質、機能の分野から改革が必要」との理由から、議員定数を 13 名から 10 名にする議案が提出され、議会改革特別委員会に付託されて審査されてきました。

議員からは、芦屋町は近隣町にない町立病院やポートレースなどの事業があり、議員が減れば批判監視機能が低下する、他の議会との関係（表②）、住民の意思を反映させるためには現状を維持すべきなど様々な意見が出されました。慎重審査を重ねた結果、1 名を削減し 12 名とすることに決定しました。（賛成 9・反対 3 可決）

第 4 回定例会が、平成 25 年 12 月 4 日から 17 日までの 14 日間の会期で開催されました。5、6 日に行われた一般質問では、8 人の議員が登壇しました。条例、補正予算など 21 議案が提案され、請願を除くすべての議案が可決されました。

表① 芦屋町議会議員定数の推移

適用年月日	議員定数（改正前）	人口（各年 5 月 1 日）	常任委員会数
昭和 62 年 5 月 1 日	18 (22)	18,163	3
平成 15 年 5 月 1 日	16 (18)	16,602	2
平成 19 年 5 月 1 日	13 (16)	16,178	2

表② 遠賀郡他町議会との比較

	議員定数 (H 25. 5)	人口 (H 25. 5)	議員一人あたりの人口
芦屋町	13	15,027	1,156
遠賀町	14	19,600	1,400
水巻町	16	29,583	1,849
岡垣町	13	32,590	2,507

健康・こども課 新設

平成27年4月から施行される子ども・子育て支援新制度の目的が果たせるよう、平成26年4月に「健康・こども課」を新設します。

事務分掌条例改正

(満場一致・可決)

健康・こども課は、現在の福祉課と住民課の枠組みを見直し、子育て支援に関すること、健康づくりに関すること、保健に関することを所掌事務とします。新設される子育て支援係では、子育て支援、保育所、児童扶養手当、母子福祉、学童保育などの事務がおこなわれます。

質疑

問 少子化に対応する子育て支援に係る専門部門は設置するのか

答 子ども・子育て支援制度に関する計画を策定し、必要があれば検討します。



子ども・子育て会議設置条例

(満場一致・可決)

特定教育・保育施設の利用定員設定などの事務処理のため、合議制の機関を設置します。

特殊勤務手当支給条例を一部改正する条例

(満場一致・可決)

町立芦屋中央病院の看護師の「宿日直手当」及び「夜間看護手当」を国と同額に改正します。

宿日直手当

4200円↓5900円

夜間看護手当

4000円↓6800円

質疑

問 看護師の処遇が国の基準と違うことは、今まで問題はなかったのか

答 募集しても、募集定員にも満たない状況。国と同額の水準にして改善を図ります。将来的に、独立行政法人になれば、独自の賃金形態となります。

特別養護老人ホーム設置を求める

福岡県へ意見書を提出

(賛成 11・反対 1 可決)

意見書

特別養護老人ホーム設置に関する意見書

(賛成多数・可決)

福岡県第6次高齢者福祉計画において、平成26年度福岡県高齢者福祉施設等整備方針で、芦屋町に対し特別養護老人ホーム設置枠が与えられ、現在、町から県へ協議書が提出されています。

過去2年は採択に至らず、今年が最終年

特別養護老人ホームの設置については、24年度には、応募資格を満たす事業者が現れず、25年度には、芦屋町から福岡県へ協議書を提出しましたが不採択となっていました。今回が最終年となるため、福岡県に対し住民の悲願である特別養護老人ホーム設置の採択を求める意見書です。

特養に関する議会での取り組み

平成 23 年 9 月 特別養護老人ホーム新設を求める意見書を福岡県知事に提出
平成 25 年 6 月 特別養護老人ホーム設置に関する議会決議
平成 25 年 12 月 特別養護老人ホーム設置に関する意見書を福岡県知事に提出

その他の意見書

容器包装リサイクル法を改正し、発生抑制と再利用を促進するための法律制定を求める意見書

(満場一致・可決)

総合運動公園内造成地の測量・設計委託など一般会計補正予算を可決

補正
予算

(賛成 10・反対 2 可決)

新病院建て替えに係る総合運動公園内造成地の測量・設計委託費や、全国的に被害が拡大している松くい虫被害による枯松の伐採経費など8200万円を増額しています。

歳出の主な内容

補正のあった歳出の主な内容	補正額
一般職職員給与削減額 (公務員給与の減額の特例による減額分ただし特別会計分を除く)	▲1610万円
地域活動支援センター建設補助金 (障がい者支援施設建設補助金)	675万円
芦屋町介護基盤緊急整備補助金 (グループホーム建設補助金)	405万円
子ども・子育て支援新制度電子システム整備業務委託 (国とのオンライン化に伴う電算システム整備)	952万円
芦屋町乳幼児・子ども医療費助成事業基金積立金元金 (乳幼児・子ども医療費無料化に伴う財源積立)	5775万円
松くい虫伐倒駆除 (松くい虫による被害木の伐採)	850万円
松くい虫防除(樹幹注入) (松くい虫防除のため松に薬剤注入)	540万円
総合運動公園内造成地測量設計委託 (一般会計分)	1220万円
総合運動公園内造成地測量設計委託 (病院事業会計分)	1785万円



松くい虫被害により閑散とした鶴松保安林

平成25年度芦屋町一般会計補正予算(第3号)

(賛成多数・可決)

質疑

問 公務員給与の減額分は防災・減災に使うことになっっているが用途は

答 削減分は、26年度に該当事業へ充当します。

問 松の伐採本数は

答 1472本を伐採します。

問 樹幹注入の方法、効果と本数は

答 松の木700本に直接薬剤を注入します。薬剤効果は、5年から6年です。

問 防衛関連の交付金が約6150万円追加となったが、理由とその用途は

答 ブルーインパルスといった昨年度を上回る額で、町長及び議会の要望活動が実ったものです。乳幼児子ども医療費助成事業基金積立、山鹿小学校遊具取替工事、小体育館トイレ改修設計委託に充当します。

平成25年度芦屋町国民宿舎特別会計補正予算(第2号)

(賛成多数・可決)

歳入、歳出それぞれ、406万円の増額補正。

質疑

問 施設改修のため、指定管理料を406万円減額するが、協定書に記載があるのか

答 協定書には記載がないが、弁護士によると支払い義務があるというところです。今後、協定書の中に位置づけます。

討 論

討論とは・・・

議案に対して、自分の賛成または反対の意見を表明することで。

職員給与減額関連
の補正予算

反 対

川上誠一議員
今まで給与の引き下げに一貫して反対してきた。

理由は、第一に、

地方固有の財源である交付税の役割を否定していること、第二に人事院勧告を無視していること、第三に給与の大幅な減額は地域経済や職員の生活設計に影響を与えること、第四に財政健全化のために地方独自に行ってきた努力を無視するものであり一片の道理もないものである。

国民宿舎特別会計
補正予算

賛 成

田島憲道議員
賛成だが、いくつか指摘をする。

マリントラスには、約40名が勤めているが、みな低賃金の契約社員である。冬のボーナスはゼロ、3年間支給無し。休館間近に4名が退職した。

今回、家賃の減額以外で、給与補償に406万円の予算。これは従業員全員の45日間の休業期間の全額補償には少ない額だ。不足分を指定管理者が負担するのは当然だ。

い。また町民の提言も
検証不足である。
医師の確保、アクセ
ス問題、院外調剤薬
局、事業規模などの問
題を置き去りにして計
画を進める事は非常に
危険。過疎債の期限が
平成32年度まで5年延
長されたのだから、再
度綿密に検証すべき。

賛 成

今井保利議員
総合体育館の土
地測量に対する経
費を計上されてい
るが、これはまだ
決定されていない病院
の設立費用として、予
算計上されている。

本来は、一般会計で一旦計上し、建設決定された段階で、費用の負担付け替えて処理をすべきである。

病院事業会計
補正予算

反 対

妹川征男議員
町は「住民説明会」で町民の理解を得た一としているが、町民の疑問点の解消には程遠

議案としては賛成だが、今後、決定されない予算を提案しないように。

12月定例会意見がわかれた議案の賛否一覧

表決にあたり、意見がわかれた議案の賛否について掲載しています。掲載のない議案は、満場一致で可決されました。

○賛成、●反対を表しています。

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	賛成	反対	審議結果
議案名 / 議員名	松上	内海	刀根	妹川	貝掛	田島	辻本	小田	今井	川上	益田	中西	横尾			
芦屋町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定	○	○	○	●	○	●	○	○	○	●	○	○	議長	9	3	可決
平成25年度芦屋町一般会計補正予算(第3号)	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	議長	10	2	可決
平成25年度芦屋町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	議長	11	1	可決
平成25年度芦屋町給食センター特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	議長	11	1	可決
平成25年度芦屋町訪問看護特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	議長	11	1	可決
平成25年度芦屋町モーターボート競走事業会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	議長	11	1	可決
平成25年度芦屋町病院事業会計補正予算(第2号)	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	議長	10	2	可決
平成25年度芦屋町公共下水道事業会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	議長	11	1	可決
特別養護老人ホーム設置に関する意見書	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	11	1	可決
治安維持法犠牲者国家賠償法(仮称)の制定を支持し、政府に対し意見書の提出を求める請願書	●	●	●	○	●	●	●	●	○	○	●	●	議長	3	9	不採択

行政報告

行政報告とは・・・

町長が議会を通じて町の重要な問題の経過等を住民に報告するものです。ここでは、平成25年9月から12月までにおけるものを報告しています。

るよう、災害対策本部における災害時の状況を模擬的に体験しながら、迅速かつ適切な対応能力を身に着けることを目的に実施しました。この研修による課題を整理・評価して、今後の本部運営に生かしていきます。

災害対策本部設置運営訓練

10月22日、福岡県の支援を受けて、職員を対象に災害対策本部運営訓練を行いました。

この訓練では、風水害による災害をテーマとし、被害を軽減でき



風災害を想定した災害対策本部模擬訓練（H 25.10.22）

夏井ヶ浜海岸崩落防止策

福岡県による設計で工法が決まり、現在、詳細設計が進められています。1月には工事の一部が発注され、全体工事は26年度末に完了予定です。

また、工事の一部は町負担の県工事となりますので、県との調整後、予算化します。



崩落が進む夏井ヶ浜海岸（H 26.1.28 撮影）

平成26年の抱負

町議会を代表いたしましたして、平成26年を迎えて一言ご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、年があけて既に一月余り経ちますが、益々ご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。

また、皆様方には、日頃から町議会に対し、ご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、昨年からは、景気は緩やかに回復していると言われていますが、今後、実施されます消費税アップや、公的年金の引き下げなど、市民生活には依然として厳しい状況が続くようで、今後とも、国政の動きを注意深く見守りながら、行政と一丸となって対応を考

えていく必要があると思っております。

議会といたしましても、2年前から、議会改革特別委員会の中で検討してまいりました議員定数削減については一定の議論が終了し、昨年の12月定例会において、現在13名の議員定数を、次回の選挙から1名削減して12名とすることを議決いたしました。議会改革については、今後とも引き続き検討を重ねていき、町民の皆様の負託に応えられるよう努力してまいります。

私共の任期も残すところ一年有剰となりましたが、町勢発展と住民福祉の充実のため、微力ではありますが、誠心誠意の努力をいたす所存でありますので、どうか皆様のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年を迎えての挨拶といたします。

芦屋町議会

議長 横尾武志



一般質問

町政を問う

12月5、6日に議員8人が一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針等について所信を聞き、報告や説明を求め疑問点をたずねることです。質問する議員は、事前に質問通告書を提出し、本会議において1人60分の制限時間内で質問を行っています。

議会だよりでは、質問した議員が自ら記事を作り掲載していますが、紙面の都合上、要約しています。一般質問の会議録は、議会事務局や芦屋町ホームページで閲覧できます。

ページ	質問議員	質問事項
8	今井 保利	1. 町立芦屋中央病院（新規病院計画） 2. 芦屋町の財政計画（今後の財政）
9	妹川 征男	1. 特別養護老人ホームに関する広報の記事 （9月15日号広報あしやの記事） 2. 25年度特別養護老人ホーム不採択 3. 26年度特別養護老人ホーム公募、審査の結果 4. 町立芦屋新病院の住民説明会の結果 5. 町立芦屋中央病院の独立行政法人化
10	川上 誠一	1. 町立芦屋中央病院（地方独立行政法人化・院外薬局） 2. 芦屋町町営住宅長寿寿命化計画 3. 介護保険制度
11	内海 猛年	1. 介護保険（介護予防事業）
12	刀根 正幸	1. 人口増加対策 2. 高齢者福祉の充実
13	益田 美恵子	1. 空き家等の適正管理
14	松上 宏幸	1. 教職員の勤務実態とその対応
15	田島 憲道	1. 国民宿舎マリテラスあしや 2. あしやんいか



Q

46億9千万円の新規病院投資は大きすぎる

A

国からの助成もあり、町の負担は24億6千万円であり、対応できる



いま 井 保 とし 利



建て替えが検討されている町立声屋中央病院

新規病院計画

議員 病院の新規投資が素案では46億9千万円である。金額的に大きく、更に検討し、削減を検討すべきと思うが。

課長 国からの財政助成があり、町の負担は24億6千万円であり、負担できると考える。

議員 計画では4、5年で赤字解消できるとしているが、非常に危険な計画ではないか。

課長 将来的に見通した来院患者数でも、当初一時的な損金が出るが、将来的には現在の水準を維持できると考える。

議員 全国の自治体病院を見ても、利益の出ている病院はない。その中で、困難な医師確保の課題もあり、どのように運営するのか。

課長 確かに、全国的に公立病院では、医師確保が困難である。

そのため、経営形態を地方独立行政法人に替え、職場環境改善等に対応したいと考える。

議員 各地域で説明会を行い、その後計画が確定されるのであるが、もう少し、時間をかけ町民の理解を必要とするべきではないのか。

課長 各地区での説明会后、時間をかけてまとめ、議会に基本計画を示す。

今後の財政

議員 広報で財政は大丈夫と表現されているが、その根拠は。

課長 起債（借金）の残高は15億円増えているが、国の助成もあり実質の返済額は5億円である。

注 実質公債費比率は、前年よりダウンしている。

基金（貯金）は、24年度末で42億円となり、改善されている。

以上のことから健全な財政運営に向いてきていると考える。

議員 ポート事業の繰り入れが増えているが、内部留保を含めて、財政運営はどうなのか。

課長 34年までの今後10年間で、内部留保を確保しながら、一般会計に44億円の繰り出しができると予測している。

議員 財政（歳入）の改善計画はいろいろと実施しているが、実際の効果が出ていない。一番大事なことであり、今後どのように計画し効果を上げるのか。

町長 芦屋町は利用可能な土地も少なく、企業誘致等できない状況である。

行財政改革をやりながら、ポートに頼らない財政運営をしたいと考える。

※注1 実質公債費比率 標準財政規模に対する負債の返済割合



お 川 征 男
いも かわ いく お
妹 川 征 男

Q 不適切な書類を受け付けたことから端を発したのでは

A 県に確認しながら必要な書類が整っているということで受け付けた



9月15日号の広報あしやに掲載された特別養護老人ホームに関する記事

9月15日号広報あしやの記事

議員 特別養護老人ホーム

ムに関する記事は、町の失敗を打ち消すために、都合の悪いものは隠し、都合のよい内容にすりかえ、町を正当化した内容にしている。文面は誰が書いたのか。

課長 私の起案である。

議員 記事の中に「誹謗中傷のピラがまかれていいる」とあるが、誹謗中傷の定義は何か。

課長 誹謗中傷とは、根拠のない事実で他人をおとしめること。町内に頒布されたピラ等であった、官製談合を初めとして、事実に基づかないもの。

議員 開示請求した中で

町は誹謗中傷のピラとして「特別養護老人ホーム申請の疑惑を追及する会」、「NPO法人ニューオンブズマン」、「医療法人慶愛優声屋はまゆう」を挙げているが、広報を

出す前に事実確認や言い分を聞くために、これらの団体及び事業者と話をしたか。

課長 窓口に来た団体には、事実でないことの記載について説明し、注意したことはある。しかし、広報を出す前に話はしていない。

議員 話し合いをせず広報を出すなど、町は逆にその団体に対して誹謗中傷しているのではないかと感じる。

記事に「町での選考を終え、福岡県へ書類を提出した後に同意を撤回したことに端を発した」とあるがどういう意味なのか。

課長 選定委員会での選定、それから答申に基づいた町での選定を終えて同意の撤回をされたという意味である。

議員 そういう意味ではなく、字名が違っていたり、また、隣接地主が反対したため、通りもしな

い水路や通学道路として3メートルも歩道があるのに分筆したなりすまし同意書など、不適切な応募書類を町が11月9日に受け付けたことから端を発したのではないか。

課長 受け付けに関しては、県に確認しながら必要な書類が整っていると

議員 広報は誰のものなのか。事実をゆがめて真実を隠すような広報ではないか。この記事は信頼性と信用性を損ねた内容である。信頼回復のためにも第三者機関による文面検討委員会等を設置する気はないか。

町長 ピラの中に、「芦屋町政は利権に群がる一部議員と町長とで動いている」、「暗躍の真相が暴露された」とあるが、これが誹謗中傷のピラでないと思われるかどうか。行政には、真実を住民に知らせる責務があるので、広報を発行した。

い水路や通学道路として3メートルも歩道があるのに分筆したなりすまし同意書など、不適切な応募書類を町が11月9日に受け付けたことから端を発したのではないか。

Q

院外薬局になると患者の負担が増えるのではないか



かわ 川 かみ 上 せい 誠 一

A

薬局での薬の説明などの診療報酬が手厚くなり、患者の負担が増えると考えられる



芦屋中央病院の保険薬局

地方独立行政法人・
院外薬局

議員「芦屋中央病院は地方独立行政法人を目指す」としているが、将来にわたり民間移譲や指定管理は行わず、町の直営で行うことを明言すべきでは。

町長「町民が安心して暮らせるよう入院施設のある病院が必要である。民間移譲などは行わない。」

議員「薬局の院外処方はどうになるのか。」

課長「患者が院外の保険薬局へ処方箋を持参し、薬を受け取るようになる。薬の重複処方の対応策となる。」

議員「住民からは、薬代が高くなるのではないかと、また、薬局が病院から遠くなるのではないかとこの声が上がっているが。」

課長「薬の管理説明などが手厚くなるため負担は増える。薬局の場所は、

病院と明確に区別され、公道に面したところになる。

議員「調理業務は引き続き民間に委託する計画だが、機械設備や器具は町が新たに設備を行うとなっている。」

このような場合は、有償の契約を交わすことになっているが、契約はしているのか。していないのであれば偽装請負となり、法令を遵守してないことになるが。」

課長「契約は交わしてはいないし無償である。」

芦屋町町営住宅長
寿命化計画

議員「後水住宅の建替えが計画されているが、今後の整備計画は。」

課長「後水住宅は4階建て32戸を予定している。」

平成28年度に建築工事、29年度に外溝工事を予定している。

鶴松団地については用途廃止を平成31年度とす

る計画で順次移転の説明会を行っている。
新後水団地が32戸、緑ヶ丘団地等の空き家が五十数戸あるので住み替えは可能である。

議員「町営住宅は老朽化しているが、バリアフリーなど高齢者や障害者に対する対策はどう考えているのか。」

課長「新後水住宅はエレベーター、手すりの設置、バリアフリー化等を進め、緑ヶ丘団地はエレベーターの設置を計画している。」

議員「新病院が建設された場合、病院跡地の活用が検討されるだろうが、旧ほほえみホールの棟は、まだ十分に使用できると思う。1階を老人憩いの家に、2階から上の階を高齢者や障害者対応の住宅にすることは考えられないか。」

町長「そういった、いろいろな考えを参考にしていきたい。」



うち 海 たけ とし
内 海 猛 年

Q 高齢者が介護を必要としない「介護予防」の対策は

A 介護予防教室の開催や基本チェックリストによる認知症など日常行動を把握



介護予防事業として実施している筋力アップ教室の様子(船頭町公民館)

介護予防事業

議員 高齢者が要支援・要介護認定者にならないように、町が行う介護予防事業の推進は重要だが、芦屋町における推進状況は。

課長 転倒や骨折を予防する筋力アップ教室や、低栄養状態を防ぐ「いきいき健康クッキング」、誤えん性肺炎などを予防する、「歯つらつ健口講座」などの介護予防教室を実施している。

議員 65歳以上の高齢者を対象に行っている、基本チェックリストの目的は何か。

課長 要介護状態となる恐れの高い高齢者を把握するため、運動、栄養、口腔、閉じこもり、認知症、うつなど日常行動の調査を行っている。

議員 特に予防が必要な高齢者には、どのような対策を講じるのか。

課長 介護予防教室への参加を促したり、認知症・うつが疑われる人には、保健師による訪問調査を行ったうえで、介護保険の申請や福祉サービスの支援を行っている。

議員 芦屋町は65歳以上の高齢者が39,444人、その内、要介護認定者が8,144人、認定率が20.6%と高いがその要因は何か。

課長 芦屋町は郡内で最も高い。特徴としては、80歳以上の認定率が高く、脳卒中や認知症、心臓病が要因と考えられる。

議員 認定率が高くなれば、被保険者が払う介護保険料も高くなるのではないかと。

課長 24年度の介護保険給付額は、12億700万円、芦屋町の負担額は1億5千万円となり、23年度と比較して6.32%伸びており、町の財政を圧迫する要因となっている。

議員 国は2015年度から「要支援者」向けのデイサービス(通所介護)やホームヘルプ(訪問介護)を国の事業から町が実施する地域支援事業に移管させる案をまとめた。町に移管された場合、現状のサービスは維持できるのか。また、財源の確保はどう考えているか。

課長 国が示すガイドラインなどを参考に考えていく。財源は現在と同じように、被保険者の保険料と国及び地方自治体の負担金を充てることが示されている。

議員 介護に携わるボランティアの育成はどのように進めていくのか。

課長 ボランティアで担う範囲が明確になれば必要な対策を講じる。



と ね ま さ ゆ き
力 根 正 幸

Q

魅力を生かし、元気な町としていく人口増加対策は

A

町有地の有効活用や子育て・教育環境の充実、定住化促進により人口の減少を抑制



土曜日に各公民館で実施されている「土曜学び合いルーム」

人口増加対策

議員 前は主に現状について行ったので、今回はその対策について伺う。人口増加策について具体的な施策は。

課長 町有地の有効活用、子育て・教育環境の充実、定住化促進施策などを実施し、人口の減少を抑制していくとともに、将来的に町営住宅跡地の活用を行う。

例えば、定住化促進のため、町内に戸建て住宅を取得した人に、奨励金を交付する事業を実施している。内容は、25から29年までの5年間に、町内に新築、中古住宅を取得した人に対し、3年間固定資産税相当額を商工会商品券で交付するもの。

議員 佐野市の道の駅を視察した。大変な盛況だった。

芦屋町の特徴を生か

し、魅力ある町づくりについてどのように考えているか。

町長 各部署で、町の振興策としていろんな対策を講じているが、その財源においても競艇事業が好転していることから計画的に配分している。

特に商業の活性化は商工会と協議し、町の特産品を早く作り上げたいと考えている。その他にも多岐にわたった施策を展開し、活性化を図る。

議員 芦屋町の将来方向を定めるものに、振興計画とランドデザインがあるが、どのように考えているか。

副町長 振興計画の見直しを26年度から行い、28年度から新たな5カ年計画を策定する。その中で将来を見据えた、皆さんの期待に応えられるものにしていく。

高齢者福祉の充実

議員 高齢者の雇用について、どのように考えているのか。

町長 社会福祉協議会で、高齢者の能力や経験を活用して高齢者能力活用事業を実施している。町からも業務を委託しているが、個人の家の草取りや樹木の剪定、簡単な修理などの依頼も増えているようだ。

今後町からの委託は、町内の造園業者、土木業者のこともあるので、バランスを見ながら、高齢者能力活用事業も利用していく。

議員 福祉行政基金の現在高と今後の積立目標額についてどのように考えているか。

課長 24年度末では約2億5600万円、25年度末では約1億5600万円となる予定。

今後、基金を充当する対象事業、目標額は、慎重に検討していきたい。



ます だ み え こ
益 田 美 恵 子

Q 空き家等の適正な管理を行うための条例を整備すべきでは

A 個人の権利に関することなので、検討会や弁護士の指導を受け制定の方向で進める



空き家問題は全国的に増加している
(国土交通省ホームページより)

空き家等の適正管理

議員 老朽化が著しい建物等について、町民から苦情、または相談などがあつたか。

課長 相談件数は、6件（高浜町、正門町、白浜町、田屋 各1件、柏原2件）。

主な相談内容は、①継続した土地に家屋が建っていることを知らず、建物の所有者が分からな

い。②自己所有の建物を解体する際、隣接する空き家の所有者に連絡した

いが所有者が分からな

い。③空き家を所有しているが、自分自身は公的扶助を受けているため、解体費用が工面できな

い。④隣接する空き家から屋根の一部が落ちてこ

ないか心配であるなど。**議員** 相談に対する対策は講じたのか。

課長 相談内容は、土地、建物の私有財産の關係に

なるので、所有者が適正な管理を行うのが原則である。

行政は、直接的なことができないため、わからない物件について、所有者を調査し、判明した場合、住民からの相談内容を伝え、適正な管理をお願いしているのが現状である。

議員 町の対応は、どこまで可能か、また不都合な点は何か。

課長 行政が私有財産について指導・助言等を行うためには、根拠となるものが

必要。そのため空き家等の適正管理に関する要綱を12月に作成し、

要綱に基づいて事務を行って行く。

不都合な点は、①未登記の家屋②登記名義人が死亡し、相続登記されて

いない場合、相続人を探すのに苦慮。③法定相続人が複数の場合、交渉窓口の一本化。④条例等の

法的根拠がないため戸籍などの公用請求が難しい。

議員 条例制定について、先進地を事例に検討をしてはどうか。

課長 区長会を通じて、空き家に関する情報提供を行ってもらったが、82件の情報の内34件が不適切な管理状況であることが分かった。

適正な管理のないまま長期間放置されると、生活環境に悪影響を与えるものであり、町として対策を強化すべき課題である。

条例の制定については、個人の権利に制約を加えることでもあり、慎重な判断と手続きが必要となる。検討会を立ち上げ、弁護士の指導を受けながら、条例を制定する方向で検討していく。

町長 先進地事例を調査研究し、芦屋町に合った条例を制定する方向で進んでいる。



まつ松 がみ ひろ 幸 ゆき

Q

小中学校教員の長時間勤務解消に取り組むべきでは

A

児童生徒との触れ合う時間を多くするため、公務を整理する中で効率化を図る



山鹿小学校土曜日授業（H26・18）釜の里でお茶をたてる体験授業

教職員の勤務実態とその対応

議員 小中学校の教員が仕事で一番悩んでいることは、自分の時間が持たないことであるが、芦屋町の実態は。

課長 校長等が速やかに帰宅するように指導しているが、残って仕事をやるかどうかは先生方の判断に任せている。中学校の場合は、部活動があるため、遅いときは20時頃の帰宅となっている。

議員 教員に残業手当はあるのか。

課長 臨時または緊急にやむを得ない場合を除いて、原則として時間外勤務を命じていない。やむを得ない場合の勤務は時間外手当を支給する。

議員 うつ病などの心の病で休業した公立学校の教員は全国で5000人を超えているが、芦屋町の状況は。

課長 現在、芦屋町で休

業の先生はいない。

議員 教員の多忙化は、国が定数増などの対策を打っているが解消されていない実態が浮き彫りになっている。芦屋町の実態は。

教育長 指導要領が変わり授業や学習内容が増えており、授業内容が進まないと言う実態もある。芦屋町では解消策として土曜日授業を取り入れたことで、先生方に若干のゆとりが出ている。

議員 保護者との関係や貧困・虐待・家庭内暴力など家庭が抱える問題が、子どもの問題行動や学力低下の一因となっているが、芦屋町の対応は。

課長 「芦屋の子どもは芦屋で育てる」という教育理念のもと、学校、家庭、地域が連携し、将来に夢、希望、志を持った子どもたちの育成を図っている。

貧困・虐待等の問題に対しては、小学校4年

生までの35人学級制、少人数学習指導、中学3年生対象のイブニングスタディなど、町独自のきめ細かい教育を行っている。家庭内の問題については、福祉課と連携し、それぞれの問題に対応している。

課長 福祉の面からは、児童・生徒の虐待、育児放棄については、教育委員会や児童相談所などの関係機関とケース会議を設置して、調整をとりながら対応している。

議員 小中学校などの教員の残業は、月平均95時間30分で、10年前より10時間増加している。長時間勤務解消に取り組むべきではないか。

教育長 長くなっているのは事実である。学校では会議や調査項目を減らすなどの取り組みを行っており、公務の整理をする中で効率化を図ってきたい。



た じま けん どう
田 島 憲 道

Q 海の駅の生けすを有効活用し、 生きイカを確保しては

A 現状をつぶさに調査し、出来 ることは行っていく



芦屋産のヤリイカ「あしやんいか」と福岡県産のヤリイカ「一本槍」

「あしやんいか」の ブランド化の推進

議員 芦屋町の「おもてなし」は、生きイカを食べてもらうことだ。我が町の地域ブランドとして、平成13年から「あしやんいか」というネーミングで町民に親しまれているヤリイカについて、これまで、どのようにPRしてきたのか。

課長 芦屋ツアーガイドブックやホームページを活用して情報発信をしている。

今後、芦屋町観光基本構想の中で、芦屋の素材を生かした食の魅力づくりとして、「あしやんいか」の認知向上、ブランド化を推進していくことやイベントの実施を検討する。

議員 近場でイカが獲れなくなっており、マリントラスあしやや町内の飲食店では、生きイカを確保することに悲鳴をあげ

ている。

そこで、生けすで長生きさせるための飼育や、不可能と言われる養殖についての研究、また、漁師がよそに個人で出しているイカを、海の駅の生けすを活用し、全て引き取るような仕組みを構築してはどうか。

そして、町内で安定的に供給させるために、飲食店にも協力してもらい、共同出資等で生けすを運営する。残ったイカを加工品にするなど、商品開発等に行政が取り組んではどうか。

町長 漁師さんも個人事業であり、一円でも高いところに売りたいというのが心情と思う。

「あしやんいか」とネーミングはしたが、尻すぼみ状態であることは事実である。何とか、これをメインにして、芦屋にお客が来てくれればと思っている。

提案のあったことは検

討すべきことと思うが、税を投入することなので、現状をつぶさに調査して、できることは行いたい。

議員 県の漁業協同組合連合会では、大河ドラマの「黒田官兵衛」にあり、黒田節の名槍日本号にちなんで、県産のヤリイカを「一本槍」という統一ブランドで売り出すことを決めた。これによって、町内での入手がますます困難になるのではないかと思う。

また、「あしやんいか」とのすみ分け等の対策が必要と思うが。

課長 現在、この統一ブランドに町内7店舗が加盟している。各漁協でブランドを考えると出荷すれば、入手困難になるとは考えていない。

また、「あしやんいか」は、そのまま使用できると聞いているが、今後、状況を見守っていきたい。

空き家・空き室バンクで定住化支援策を推進!

石川県小松市

より、3世代住宅の推進や事業主への支援、賃貸住宅の情報提供の3つは大きな柱であり、奨励金制度で様々なメニューを設けて効果を上げています。

能見市

能見市は、まちづくり事業としての企業誘致と工業振興の成功により人口が増加しています。住みよさランキング（安心度、利便性、快適性、裕福度、居住水準充実度）でも全国812市中9位にランクされています。

定住促進は毎年80世帯を予定しており、初期投資による支援は行うものの、将来にわたって若者の人口増加、及び税収増加を図ろうとする取り組みです。

小松市は、人口の減少に歯止めをかけるため、「定住促進支援制度、空き家・空き室バンク」、及び町家の再生と活用を図る「こまつ町家バンク」を立ち上げて「こまつ町家認定制度」を導入しています。特に、住宅の新築・購入に対する支援に



石川県小松市での研修の様子 (H 25.11.21)

その理由は、従来の定住支援促進事業を見直して、新たな支援事業（特区指定などによる定住・起業支援）等を進



北海道上富良野町での研修の様子 (H25.10.23)

特定健診率73・2% 北海道一の町に学ぶ

北海道上富良野町

民生文教常任委員会は10月22日から24日に、北海道上富良野町、富良野市の視察研修を行いました。

上富良野町

上富良野町は特定健診率が73・2%という全国的にも高い水準で生活習慣病予防の対策を行っています。

内容で上富良野町の数値を上回るものはありませんでした。

健診率が高い要因として、保健福祉課健康推進班の保健師7人が、地区担当制を取り、担当地区の健康管理の推進を競い合っていることや、住民一人ひとりの健康ノートを作成し、健診後、少し

富良野市

でも気になることがあれば訪問することが挙げられ、きめ細やかな保健指導を行っていました。

富良野市では、中心市街地活性化事業の複合総合施設である「フラノ・マルシェ」の説明を受けました。

人口減少が緩やかに続く中、中心市街地の空洞化が深刻な問題となり、観光客の流入を図るための中核施設として計画されました。

複合施設には農産物直売所をはじめ、スイーツカフェ、朝市、インターネットによる通信販売まで手がけていました。中心市街地のソフト事業効果により来場者の増加が見られ、市民による「町づくり」を展開していました。

24年度決算 認定
 遠賀・中間地域広域行政
 事務組合議会

歳入 56億 6326万円
 歳出 56億 925万円

主な使いみち

老人福祉施設費	1億4659万円
し尿処理施設費	6億1923万円
火葬施設費	2億6004万円
ごみ処理施設費	19億4455万円
消防費	20億2814万円

火葬料金改定
 4月から2万円に

平成25年11月、遠賀・中間広域行政事務組合議会第5回定例会が開かれました。
 議案は、平成24年度決算他4議案で、すべて可決、認定されました。
 火葬施設「天生園」の建て替えに伴い、料金改定等の条例が改正され、平成26年4月からは、火



新築された火葬施設「遠賀天生園」

葬料金が1万円から2万円（大人1体）になりました。
 また、一般質問では、「未焼却のごみを埋め立てた大君ごみ処理場跡地は、広域組合より芦屋町が購入しており、今後の環境問題を考えると、跡地利用ができるよう、広域組合で責任を持って土壌改良をする必要がある。」と問題提起されました。

行政視察
市民のスーパー
道の駅「どまんなか」

日程
 10月27日から29日

視察先

栃木県佐野市

千葉県千葉市

視察者

田島憲道・刀根正幸

佐野市

道の駅「どまんなか」は平成13年にオープンしました。当初は県と佐野市の共同事業で、現在は第3セクターが運営しています。市は8割の株を保有し、毎年利益の1割の配当を受けています。
 一般的な道の駅とは異なり、地域のリピート客を中心に利用されるスーパーマーケットのような形態です。また、この道の駅の成功に伴い新都心構想が持ち上がり、高速インター近くにアウト

レットモールが開設され、関東近郊からの来客で大変な賑わいとなつています。
 納品する産直業者は年々増え続け、現在は170業者にも及んでいます。また、高齢者のための宅配サービスも行っていますが、利用が少なく、今後は車両販売を計画しているそうです。

レットモールが開設され、関東近郊からの来客で大変な賑わいとなつています。
 納品する産直業者は年々増え続け、現在は170業者にも及んでいます。また、高齢者のための宅配サービスも行っていますが、



デバ地下をモデルにした道の駅「どまんなか」

東日本大震災支援金
日本財団へ贈呈

東日本大震災から3年近くが経過しています。が、いまだ復興は十分に進んでいない状況です。
 そこで、議会としても早期復興を願い、議員一人4万円を募り、東日本大震災復興支援活動を行っている日本財団に支援金を送ることにしました。



町長を通じ支援金を贈呈 (H 25.12.17)

町かどインタビュー

松くい虫被害で松の木が伐採され、閑散としていた鶴松保安林（芦屋東小学校横）に、松の苗木800本がボランティアの手によって植樹されました。当日参加された方に、感想を伺いました。

松元マサ子さん
（白浜町）

（白浜町）

近年、芦屋の松が枯れている姿をよく目にしていました。そんな折、初めて植樹に参加する機会をいただき、娘や孫達と松の苗を植えることができました。この先自分の年を考えると松の成長と

で願いながら一本一本植えました。

家族共々、松のように元気にたくましく大地に根を張り生きていきたいと心から願うとともに、とても良い経験ができたと感じしております。



お孫さん（大塚綾乃さん 光晟くん）と一緒に（H 25.12.8）

議会広報誌のコンクールがあるのをご存知ですか。

広報委員一同は、2日間にわたって開催された、議会広報研修会に参加しました。

初日は、広報コンクール優秀作品を参照し研修が行われました。

特に重要なことは、①審議や審査内容、議会活動が公開されている②行政の監視機能の発揮が紙面にでている



診断を受けた8月20日号

③調査や政策・条例の提案④多様な民意が反映される紙面⑤各議員の賛否の態度⑥住民の声、意見、要望がある等です。

2日目は、広報委員会設置後初めて編集した、最初の議会だよりあしや（8月20日号）を診断していただきました。

ドキドキの診断結果は、表紙の写真が非常に良いと合格点。レイアウトにメリハリを見出しを的確に！住民が登場する企画を！と指摘を受け、有意義な研修となりました。

議員控室

今年一年、町民の皆様が平穏無事でお過ごしになられることをご祈念申し上げます。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えた2014年が幕開けしました。普天間基地やTPP問題、日韓・日中問題、4月の消費税8%増税の影響等々、政治・経済がどのように動いていくのかを注視する年になるのではないかと思います。

から、議会の改革・活性化を推進しています。この「議会だより」も議員による編集で、議会の動きが見えるような紙面づくりに着手して第3号の発行になりました。最近はおお褒めのことばを耳にすることも多く、これからも町民皆様のある「記事を目指してまいります。

辻本 一夫

【発行責任者】

議長 横尾 武志

【議会広報常任委員会】

委員長 川上 誠一
副委員長 内海 猛年
委員 益田 美恵子
委員 辻本 一夫
委員 田島 憲道
委員 貝掛 俊之

身近な広報誌を目指し 議会広報優秀作品に学ぶ

町村議会広報研修会
平成 25 年 11 月 18、19 日